

枅形土塀復原工事レポート vol.1 (作成日 平成 25 年 10 月 11 日)

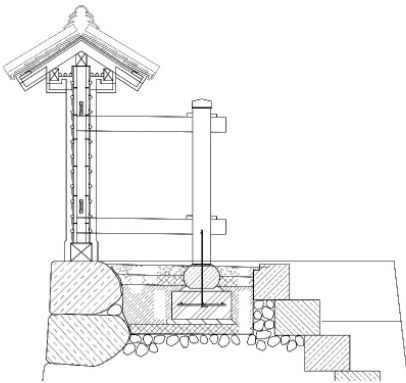
平成 25 年 7 月に完成した本丸一文字門高麗門に引き続き、7 月より枅形土塀の復原工事に着手しました。現在は、基礎工事が終わり木工事へと進んでいます。これから、枅形土塀の完成までの工程について、随時、レポートとしてご紹介していきたいと思えます。

まずは、現在までの工程を追ってみましょう。

なお、今回行う枅形土塀復原工事は、一部、山形市産の杉を使用し、さらに、建築を行う大工さんも地元の方が携わるなど、地域に根差したものとなっています。



1 本丸一文字門枅形土塀の概要



今回復原する枅形土塀の概要は、次のとおりです。

棟高 2.58m

総延長 63m

復原工事に使用する木材は、青森ヒバと杉（山形市産材及び山形県産材）です。

土塀の背面にある控え柱及び貫には、腐植に強い青森ヒバを使用します。

2 着工前の状況（南西角）

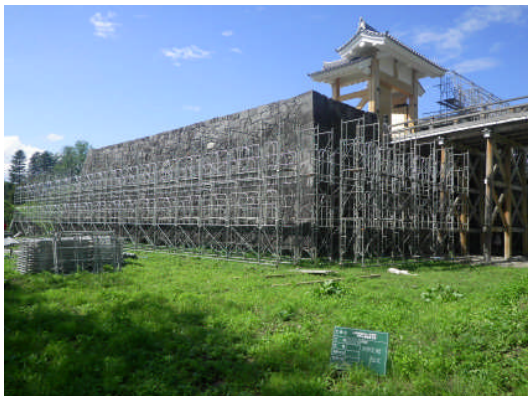


櫓台石垣の上から撮影した、着工前の枅形石垣の状況です。

「コ」の字型に合わせて、土塀を掛けます。

ちなみに、当時は、塀を「掛（懸）ける」または「付ける」と言ったそうです。

3 仮設（足場組立）



土塀が建築される石垣の高さは、堀底から約 9.5m あります。

そこに、作業用の足場を設置しました。

4 控え柱基礎



控え柱の土台となるコンクリート基礎を設置し、いよいよ組み上げる準備が整いました。

5 木工事



木工事が始まりました。
土台に柱を建て、棟木及び壁貫を組み上げたところです。

6 柱の横溝は？



柱をよく見ると、横溝がたくさんあります。さらに、土台にも多くの穴が…
これは、土壁の下地となる竹木舞がズレ落ちないように切った溝で、ここに横竹と縦竹が固定されます。